

社会 1次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	94.7	95.9	<p>2023年上半年期の時事問題とそれに関連した地理分野の出題。</p> <p>受験生の日頃からの社会問題への関心と地理分野に關しての基礎的知識を問う出題であった。全体的にはしっかりと解答できていたと思われる。その中で特に正答率が低かったのが、問6の五島列島を答える問題。長崎県の西部に位置する列島だが、予想以上に解答できていなかった。設問中には、世界遺産の一部を有するというヒントが含まれていたが、その点も含めて総合的な知識力が欠如していたと思われる。その次に正答率が低かったのは、問4の総人口の推移と人口ピラミットを見て、読み取る問題であった。この問題は、読み取りの力と同時に第一次、第二次ベビーブームに關しての知識があれば解答できる問題であった。その他の出題に關しては、基礎的な知識問題がほとんどであったので、あまり難易度は高くなかったと思う。</p> <p>日頃から社会の出来事に興味・関心を持ち、自身の感性を磨く努力が必要であることと同時に単に教科書に出てくる事だけを学習するだけでなく、常に探求心を持って、そこから更に自身で発展させた学習に取り組んでいくことが大切である。</p>	
	問2	78.2	83.8		
	問3	48.8	59.5		
	問4	42.4	47.3		
	問5	84.1	85.1		
	問6	28.8	36.5		
	問7	91.8	97.3		
	問8	53.5	64.9		
	問9	58.2	62.2		
	問10	76.5	83.8		
	問11	47.1	54.1		
	問12	84.1	87.8		
【2】	問1	(1)	80.6	89.2	<p>娯楽をテーマに出題した。</p> <p>問3と問7で受験者と合格者の差が開いた。問3は足利尊氏及び足利義昭について問う設問である。室町幕府の將軍になった人物は15名いるが、そのうち受験でよく出される將軍、尊氏・義満・義政・義昭の4名について整理してみよう。問7は菱川師宣が創始したとされる絵画の総称を問う設問で、この絵画については教科書にも大きく取り上げられているものである。文化や娯楽は歴史を学ぶ上で重要な要素である。ぜひ確認してほしい。</p> <p>その他正答率が低かった問5と問9について、問5は江戸時代におきた出来事の時系列について問う設問である。このような問題を解くには、選択肢の内容についての理解だけではなく因果關係についても意識して勉強を積み重ねることが必要である。ぜひ事実（「点」）だけではなく關係性（「流れ」）も理解して歴史を学んでほしい。</p> <p>問9について、これは明治時代になり人びとを取り巻く環境がどのように変わったのかについて具体的に理解しているかを問う設問である。生活の変化が持つ意味まで考えて日々の勉強を積み重ねると、これまでの努力が中学校以降の学習に大きく生かすことができるだろう。</p>
		(2)	88.8	94.6	
		(3)	23.5	33.8	
	問2	83.5	86.5		
	問3	68.2	78.4		
	問4	61.8	62.2		
	問5	49.4	51.4		
	問6	58.2	64.9		
	問7	48.2	58.1		
	問8	88.8	91.9		
【3】	問1	記述	26.1	29.3	<p>明治以降の日本經濟の変遷をテーマにした出題であった。記述問題は、問1・問4・問5の3題の出題であった。いずれも図表や資料などから読み取り考える問題である。</p> <p>問1の図は、19世紀初めの頃のイギリスでみられた、機械破壊運動の様子を描いたものである。機械化という技術革新によって、職人が職を失うことを抗議したものである。産業革命の内容を本文から読み取った上で、技術革新がもたらす社会的な影響を考える必要がある。現代ではAIなどのICTによる技術革新によって、多くの職業がなくなるといわれていることなどに関連づけできれば、気づくことができた出題であった。</p> <p>問4は条文の内容を正確に読み取ることが求められる出題であった。条文などに使われる文言は、通常の文章とは若干の違いがある。教科書や資料集などに掲載されている条文などもしっかりと読みとることを意識して欲しい。</p> <p>問5の写真は、ターミナル駅に隣接した百貨店と遊園地である。これ以外でも劇場や野球場の建設なども、利用客を増やす方法の一つになっている。</p> <p>合格者と受験者との正答率の差が大きかった問2は、グラフからの読み取りを問う出題であった。日頃の学習で目にするグラフを使って、推移などに注目して変化の要因などを時代背景などから考えることが効果的な学習法である。</p> <p>問3、問6、問7は、計算問題ではあったが、計算の方法を問題文から読み取れているかを問う出題であった。問題文を試験時間も意識しながら、迅速にかつ正確に読みこなすことが必要である。ぜひ、日頃の学習でも意識して欲しい。</p>
	問2		54.7	67.6	
	問3		15.9	27.0	
	問4	記述	15.5	18.9	
	問5 記述	取り組み	48.8	60.8	
		理由	33.5	42.6	
	問6		8.2	14.9	
	問7		2.9	4.1	
問8		20.6	21.6		

社会 2次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	木曾川	59.3	64.9	2つの地形図に流れる河川について、その治水方法と防・減災をテーマとして出題した。河川の名称など単純な暗記問題としてではなく、提示された図表や情報をもとに考える必要がある問題が一部含まれていたため、想定以上に時間を費やしてしまったかもしれない。全体的に得点率は低めになっているが、特に受験生全体と合格者との間で差が大きくなっているのは、問5・8・9であった。 問5はダム名称を問うものではなく、同じ形状を有した日本最大の農業用貯水池(溜池)を問うものである。「空海」というヒントがあるにも関わらず、その点を見落とし、恐らく自分が知っているダム名称を答えるものが多かったのは残念である。 問8の都市型水害に関する問いについては、「液状化現象」が洪水によるものではなく、地震によって引き起こされるという情報を理解しているか答えることができる。選択肢の誤答として用意した文章が、現実的に起こり得そうな内容となっているため、知識が中途半端に定着している生徒は気付かなかっただろう。語句とその意味については十分に一致させておくことが望ましい。 問9の首都圏外郭放水路については、この場所を知らなくとも問題文中の「江戸川」に気付けば、その流域と各都市の場所を照らし合わせて答えることが出来る。
		利根川	90.9	94.6	
	問2	53.3	58.5		
	問3	85.7	88.8		
	問4	75.5	79.5		
	問5	43.1	51.2		
	問6	40.7	42.0		
	問7	20.9	21.0		
	問8	44.5	54.1		
	問9	46.7	56.6		
問10	51.4	55.6			
【2】	問1	(1)	45.3	59.5	調味料の歴史をテーマに出題した。 正答率が低かったのは問7の和歌についての問題であった。韓国併合をよんだ石川啄木の歌はみたことがなかったかもしれないが、そもそも正岡子規は俳人であり、彼がよんだのは主に俳句であったということを理解していれば、誤りであると判断できるはずであった。また合格者と受験生全体の正答率の差が大きかったのが問1、5の語句問題と、問8であった。 問1(1)の「野田」は、歴史ではなく地理分野の知識であるため戸惑ったかもしれないが、下総が現在の千葉県であるということがわかっていれば、自信をもって答えられたはずである。また(2)の近松門左衛門は「左」の字を「佐」としてしまいう誤りが多かった。問5の「榮西」を問う問題については、「空海」や「千利休」など様々な誤答がみられたが、禅宗の開祖と書いてある以上は、道元との二択で迷ってほしいところであった。 続いて問8について、(ウ)の河村瑞賢については細かい知識だったかもしれないが、消去法で解くことを想定した問題だった。(ア)藤原純友の反乱が起こったのは10世紀である。年号を覚えるのもいいが、「〇世紀と言えば〜な時代である」という感覚は持ってほしい。(イ)大和田泊があったのは現在の兵庫県である。広島県にある平清盛ゆかりの地といえば、厳島神社が有名だ。(エ)『坊っちゃん』は夏目漱石の代表作である。以上のことを踏まえれば、自信をもって(ウ)を選べたはずである。
		(2)	66.2	77.6	
	問2	48.9	54.1		
	問3	37.6	42.4		
	問4	91.2	95.6		
	問5	45.6	58.5		
	問6	55.2	60.0		
	問7	28.0	32.2		
	問8	54.9	69.8		
	問9	52.7	58.0		
	問10	69.2	77.6		
問11	85.7	90.2			
【3】	問1	49.7	53.7	「世界の国々」をテーマとした、地理・歴史・公民の総合問題であった。全体的には、【1】と【2】に時間をかけすぎてしまったためか、最後まで問題に手がまわっていない解答が多く散見された。 問2は、赤道上の1周が約4万kmである知識を活用する問題であった。問4のグラフは「ハイサーグラフ」と呼ばれるもので、小学生になじみの薄いグラフであったが、資料(4)気候の特徴や、オーストラリアが南半球に位置していることから解答を導き出すことができた。問5は、提示された3つの資料と、中継貿易などの歴史の知識をもとに解答をする問題であった。問7は、累進課税に関する計算問題で、600万円に対する所得税の金額を、資料中の「330万円を超えて、695万円以下は20%の税率」をそのまま用いて600万円×0.2=120万円、とする誤答が目立った。 記述問題は例年通り、【3】の総合問題で3題出題された。問6は、3つの資料から読み取れる内容と資料の関係性について説明する問題であった。[資料2]は、金銀の交換比率の違いについて、[図4]は、小判に含まれる金の量が減少していること、[図5]は、物価上昇の様子が描かれていること、以上の3点から、貿易が始まったことによる影響を、金の海外流出や通貨の価値の下落などを想起しながら、論理的に記述する必要があった。問8は、日本からアメリカ合衆国への旅行者、アメリカ合衆国から日本への旅行者がそれぞれ有利になる状況を、「円高・円安・交換」という3つの指定語句を用いて説明する問題であった。問題中に示された図に、実際の金額を当てはめてみれば解答をイメージしやすい問題であったが、有利な状況が、日本からアメリカへの旅行者、アメリカから日本への旅行者、と逆になっていたりと、「交換」の指定語句をうまく記述に関連させられない解答が見受けられた。問9は、時間的な問題もあってか、空欄もしくは、記号のみの解答が多かった。インドネシアを選び、その理由を説明する問題であったが、決してインドネシアに関する細かい知識が問われているわけではない。問9の問題文中に記されている「都市人口率」の特徴から、一般的に発展途上国では都市人口率が低いこと、資料(6)経済、資料(7)の国際組織から、インドネシアやエチオピアが発展途上国に分類されること、さらに、経済水準としては、エチオピアよりインドネシアの方が上位にあること、などを踏まえて解答する必要があった。	
	問2	33.2	42.4		
	問3	81.3	86.3		
	問4	44.8	52.7		
	問5	41.2	50.7		
	問6	記述	36.9		46.0
	問7	4.7	7.3		
	問8	記述	23.3		27.5
	問8 記述	記号	28.0		34.1
理由		3.0	3.7		

社会 3次 正答率・講評

問題			正答率 (%)		講評	
			受験者	合格者		
【1】	問1	(1)	90.3	94.0	<p>「温泉」をテーマに、基本的な内容を出題した。語句問題、図表を読み取る問題、地図上の位置を確認する問題など、地理分野の基礎となるものを多様な形で出題した。全体的に正答率は高く、教科書の内容をよく学習してきたことが伺える。</p> <p>正答率が唯一50%を切った問題は問7であった。こちらは製造品出荷額等の構成を示した4つの円グラフの中から、東海工業地域のものを選ぶ問題である。機械や金属などの出荷割合の細かい数字がたくさん出てきたこともあり、混乱したと思われる。しかし4つの円グラフはどれも教科書で出てくる主要な工業地帯・地域の構成であり、下の合計額などを参照すれば簡単に解ける問題である。地理ではこういったグラフや数字を読み取る問題が頻出するので、今後慣れていく必要がある。</p> <p>その他、問2(A)の都道府県の形を聞く問題、問4の世界遺産の写真を選ぶ問題などが、他と比べるとやや正答率が落ちる。地理は、教科書の文章だけでなく、関連する写真や図絵、また地図上の位置などもまとめて学習することで、より深く理解することができる。ぜひ今後の習慣にしてほしい。</p>	
		(2)	82.6	92.0		
	問2	(A)	57.0	70.0		
		(B)	86.0	100.0		
	問3		70.0	80.0		
	問4		69.1	68.0		
	問5		80.2	90.0		
	問6		85.0	94.0		
	問7		48.8	58.0		
	問8		87.9	96.0		
問9		65.7	88.0			
問10		62.8	78.0			
【2】	問1	(1)	16.9	28.0	<p>各時代の主要人物について出題をした。歴史的、社会的背景の基本的な流れを理解していれば特に難しくなかったと思われる。正答率で7割を超えた問題が12題中5問と予想に反して低かった。</p> <p>問1では、空欄補充の問いであったが、(1)では漢字ミスや「秀長」、(2)も「秀忠」の誤答が散見された。問2は、九州地方の主要な遺跡を理解していれば容易であったと思われる。問3は、歴史用語ではなく歴史の流れを捉えてもらいたい。問7は、問題文に京都府南部とあったので山城と解答できていたが、土一揆の誤答が多かった。一揆を行なった集団や一揆の相手をしっかりと理解しておこう。問9は参勤交代の制度が家光の時代に加えられたことを理解すること。最後に問10では開国後の幕府の様子や江戸初期における琉球王国と薩摩藩との関係性を理解してもらいたい。</p> <p>繰り返しになるが、暗記だけではなく、歴史の流れを把握しておくこと。また、問題文をしっかりと読み、何を問われているのかを的確に判断する必要があると思う。今後の学習に活かしていただきたい。</p>	
		(2)	67.6	82.0		
	問2		58.0	56.0		
	問3		58.5	72.0		
	問4		86.5	94.0		
	問5		76.8	80.0		
	問6		53.6	64.0		
	問7		89.9	100		
	問8		89.9	94.0		
	問9		40.6	40.0		
	問10		57.5	68.0		
問11		85.0	100			
【3】	問1		41.3	56.0	<p>「ファッション」をテーマにした総合問題であった。記述問題は問3・問6・問8で、例年通り3題出題された。</p> <p>問3の[図3]は、ボン・マルシェで発行されたカタログの写真で、説明文からカタログがバリ以外にも郵送されたことがわかる。そして[図4]は、1840年代以降に鉄道が普及したことを示すグラフである。以上の2点から、お店に直接行かなくても商品を購入することができる配送サービスが開始したことに気が付いてほしかった。しかし、[図3]についてのみ触れた解答が目立った。</p> <p>問6は、サステナブルファッションを目指すために企業と消費者が行うべき取り組みをそれぞれ考えて説明する問題であった。[図7]は、国内におけるアパレルの供給量は増加している一方で、市場規模は下がっていることを示しており、衣服1枚あたりの価格を安くして、短いサイクルで大量生産・販売を行うファストファッションが問題になっていること、それにより[資料2]のように大量廃棄につながっていることが読み取れる。また[資料1]は、原材料調達から製造までの段階で環境に対してさまざまな負荷がかかっていることが読み取れる。これらを踏まえた上で、具体的にどのような対策をとることができるかを記述する必要があった。具体的な取り組みではなく、ただ単に「環境負荷の総量を減らす」と書いてあったり、問題文に「原材料の調達、記事や衣服の製造、販売や購入の過程で」と指定しているにもかかわらず、消費者側の取り組みとして「着られなくなったものは人に譲る」のみ書いている解答が多く見受けられた。</p>	
	問2		72.9	82.0		
	問3	記述		14.7		16.0
	問4			77.8		86.0
	問5	[図5]		73.4		92.0
		[図6]		53.1		72.0
	問6 記述	企業		48.1		53.0
		消費者		21.7		20.0
問7			21.3	18.0		
問8			17.9	28.0		